



福岡大学紙  
同窓会

(編集・広報委員会)

# 有 信

有信会のアドレス

http://www.yushin.jp/

Eメール

yushin@adm.fukuoka-u.ac.jp



会員大会であいさつする川畑理事長(左側壇上)

## 一般社団法人移行

# 今秋にも申請

## 代議員総会で決算など承認

会員大会

全会員が年一回集まる有信会(川畑懿子理事長)の平成二十四年度会員大会が六月十六日、福岡市中央区のホテルニューオータニ博多で開催され、会員ら約五百六十人が参加した。この日は代議員総会が開かれ、二十三年度の事業報告、収支報告などを承認。正味財産が確定したことで、一般社団法人への移行認可申請の準備が全て整った。必要な書類などを作成して、今秋にも内閣府へ申請することになった。

(2、3、4面に関連記事)

## 講演会は市民含め千人超

会員大会のスタートは支部長会。全国百カ所の地域支部・職域支部代表が出席した。まず、一般社団法人になった時の支部長の代議員資格について説明があった。続いて支部長七人が支部運営の現状と活性化状況を次々にスピーチした。

代議員総会には委任状を含めて四百二十六人が出席。一般社団法人への移行申請に必要な正味財産額は約三億二千万円。この額を「みなし額」として手続きする。公益目的支出計画では正味財産は全て学校法人福岡大学に寄付することが決定している。

このあと、講演会が行われた。ジャーナリストの櫻井よしこ氏が「今、日本が直面する内外の課題」と題して約一時間半にわたって話した。新聞四紙を使って一般市民にも参加を呼びか

けたところ、希望者が殺到。五百六十人に上った。当日の参加者は会員を含めて千人超。ロビーにもモニターテレビ二台を設置するほどだった。

会員大会・懇親会には母校の衛藤卓也学長をはじめ役員者など来賓約三十人を迎えた。川畑理事長が「有信会是一般社団法人移行認可の申請をします。これからも文化事業や公益事業を行っていきます」とあいさつ。衛藤学長が「大学と有信会とは永遠の関係を」と祝辞。退任支部長への感謝状贈呈などがあった。

福大附属若葉高校ダンス部や大学交響楽団などのアトラクションもあった。

## 新館の2棟 ベール脱ぐ

中央図書館  
2号館

母校創立七十五周年記念事業として完成した新しい「中央図書館」の開館記念式典・祝賀会が六月三十日、同図書館を中心に行われ、七月二日から正式オープンした。同じく「2号館」(通称・商学部棟)も竣工記念の集いが一足早い四月二十八日に行われた。これ

で新館二棟の最先端各種施設がベールを脱いだ。

中央図書館では記念式典に先立って施設内覧会。則ち松彰文図書館長らが学内外からの見学者に対応した。鉄筋コンクリート地下一階、地上七階建ての内部は最大百八十八万冊の蔵書を三分

ムード一色に包まれた。一方、2号館の竣工記念の集いは石上悦朗商学部長らが出迎える中、約二百十人の関係者が参加した。地下一階、地上九階の建物には商学部のほか、法、経、人文各学部も同居。双方向対話型の教育支援システム「レスポンス・アナライザー」などが公開された。テイカカズラなどのカズラ類が這い上る建物外壁の壁面緑化も興味を呼んだ。

2面	支部長会	人の課題
3面	一般社団法人の	懇談会
4面	在学生と	入学式
5面	卒業式・	写真特集
6-7面	新館の	総会
8-9面	支部	決算報告
10-11面	事業・	写真展
12面	オール	

本号12頁



講演する櫻井氏



ジャーナリスト  
櫻井よしこ氏

ロビーにも溢れて 講演会  
 会員大会で行われたが溢れた。「私は大分県中  
 ジャーナリスト・櫻井よしこ氏の講演会は一般市民も津市で育った九州女、ズバ  
 含めて千人超の聴衆が集まるとの言葉通り、激動する世界やアジ  
 り、ロビーに設置したモニターの前に溢れた。日本に向かうベ  
 ターテレビ二台の前にも人き進路を明確に示した。



ロビーのモニターテレビ前に溢れた聴衆

## 世界一の踊り披露 附属若葉高のダンス部



有信会の会員大会で福大附属若葉高のダンス部が見事な創作ダンスを披露、会場を魅了した。

同部は昨年三月にアメリカ・テキサス州で行われた創作ダンスの世界大会で優勝した。会員大会では部員四十人や保護者など約六十人が出場。踊りは「輝け玄海」ストリート・オブ・ファイアーの二曲。フロアいっぱいを使い、約十五分間にわたって華麗で力強い踊りを展開した。同部顧問の松尾京子教諭は「練習不足でした」とは言うものの、スピード豊かなダンスに大きな拍手が贈られた。

## 活性化あの手この手

### 支部長会 7人が運営報告



支部活性化あの手この手が報告された支部長会

会員大会の皮切りになった。報告は「活動資金が足り  
 た全国支部長会では、支部運営の近況を七人の支部長  
 が報告した。内容は支部活性化のあの手この手。それ  
 ぞれに苦心を重ねて活動を盛り上げている。  
 七人は芹川孝一・東京支部長、原吉幸・大阪支部長、  
 石橋正之・古賀支部長、高取義治・佐賀支部長、吉田  
 茂視・長崎支部長、福田光一・鹿兒島支部長、天野  
 一二・宗像支部長(報告順)。



退任支部長への感謝状贈呈

### 退任支部長7人に感謝状

会員大会の席上、有信会は昨年九月以降に退任した地域支部長七氏に対して感謝状や感謝楯を贈った。七氏のうち田川支部長だった野村喜七郎氏は在任期間がなんと二十五年間と最も長期。このため、七氏を代表して同氏に川畑理事長から感謝楯が手渡された。感謝

楯などが贈られた七氏は次のとおり。卒年順、敬称略、かつこの内の洋数字は支部長在任年数。  
 ▽大分支部長 大脇啓司(1) ▽田川支部長 野村喜七郎(25) ▽柳川支部長 古賀己智生(6) ▽浮羽支部長 柳瀬侑弘(11) ▽唐津支部長 手島三郎(7) ▽神戸支部長 吉田文昭(5) ▽山鹿支部長 佐藤誠一郎(2)



有信会が準備を進めてきた一般社団法人への移行がいよいよ申請段階に進む。申請先は行政庁(内閣府)。認可されるための定款変更などに伴うさまざまな課題が待ち受ける。これまで移行準備の中心になってきた有信会事務局の大神治幸事務局長に、移行後の主な変更点や今後の課題について聞いてみた。

### 大神事務局長に聞く



大神事務局長

「これまでの社団法人と新しい一般社団法人とはどんな違いがありますか  
**大神事務局長** これまでの社団法人は公益性が高いと判断されて税制面で優遇されて来ました。しかし、同窓会活動は非営利活動で収益事業をしていません。一般社団法人になると、預貯金利息への源泉課税は新たに発生しますが、同窓会の活動自体は現状維持できます。

## 一般社団法人移行後の課題

# 代議員は各学部選出

## 総会、6月だけに

### 本部と支部 事業年度同一に



代議員総会で決算報告などを挙手で承認する代議員たち

「今回の移行準備は大変だったとお聞きます。どんな準備をされましたか  
**大神** 平成二十年十二月一日から二十五年十一月三十日までの五年間に移行認可を取る必要があります。ある意味では時間との戦いでした。主な準備は①公益法人にするか一般法人にするかの方針決定②定款など規定案の作成③社団法人解散時の財産の使途④支部会計の見直し⑤所定の講習会参加⑥内閣府公益認定等委員会

味では時間との戦いでした。主な準備は①公益法人にするか一般法人にするかの方針決定②定款など規定案の作成③社団法人解散時の財産の使途④支部会計の見直し⑤所定の講習会参加⑥内閣府公益認定等委員会

の手引き参照などなど。全く新しい制度のため手探りの部分が多く、理事会・代議員総会の機関決定が必要になりました。

「定款の主な変更点はどこですか  
**大神** 地域支部と職域支部に新たに学部等同窓会を支部として追加した点、代議員を選挙で選出して定数、任期、通常総会を

「代議員の選出が大変です。わねばなりません。方法などはこれからです。  
**大神** 各学部同窓会に選挙管理委員会を置いて、代議員選出の実務を担ってもら

「お聞きした分は一部でしよう。大変な作業をありがとうございました。

### ◆法人制度改革◆

「注 有信会の一般社団法人への移行は、平成八年の閣議決定に始まった。「同窓会は公益法人として適当

でない」とされた。公益法人制度改革三法では「公益でなく「共益」となり、一般社団法人への移行を選ぶことになった。今回の公益法人改革は、政府が目指す

「小さな政府」官から民への流れを促進。公益性の判断基準を統一し、主務官庁の許可でなく、行政庁(国・都道府県)が認定・認可することになっている。

「定足数、任期、通常総会を定足数、任期、通常総会を定足数、任期、通常総会を

「代議員の選出が大変です。わねばなりません。方法などはこれからです。  
**大神** 各学部同窓会に選挙管理委員会を置いて、代議員選出の実務を担ってもら

「お聞きした分は一部でしよう。大変な作業をありがとうございました。

## 監督官庁なくなる

「お聞きした分は一部でしよう。大変な作業をありがとうございました。

# 各学部の選管委が発足

## 一般社団法人移行 代議員選出に備えて

有信会是一般社団法人へ 代議員選出規則に基づく。移行に伴う代議員選出に 第5条には「各学部同 備えて各学部同窓会に選挙 管理委員会を発足させた。 三月二十四日に開催した 二十三年度第二回代議員総 会の終了後、代議員が各学 部ごとに分かれて選管委員 を選んだ。

各学部の選管委の設置は 可されると、すぐにでも実 動する。

各学部同窓会選管委の代 表者は次のとおり。敬称略、 ( )内は卒年、○洋数字 は委員数。

▽高商・商大Ⅱ秋村幸三 郎(短大27) ⑤▽人文Ⅱ矢 野京子(56) ⑤▽法Ⅱ小林 孝行(42) ⑨▽経済Ⅱ塚原 聖子(60) ⑫▽商Ⅱ山下矩

## トークショーも 大交流会は190人参加

生37) ⑮▽商Ⅱ行徳弘治 (38) ⑦▽理Ⅱ谷法経(51) ⑧▽工Ⅱ長野修治(48) ⑥▽ 医Ⅱ江下明彦(54) ⑥▽薬Ⅱ 戸田昭洋(41) ⑤▽スポーツ Ⅱ矢野宏也(49) ⑦

「はじめまして先輩」「が んばれ先輩」をキャッチフ レーズにした有信八日会・ 大交流会が三月三日、福岡 市中央区の福岡国際ホール で行われた。会員や在学 生など約百九十人が参加。 トークショーや抽選会など で賑わった。

大交流会は八日会の若手 運営委員が中心になって企 画。八日会の参加者拡大と 交流の活性化を目的にして いる。川畑理事長あいさつ のあと、母校卒でテレビの FBS福岡放送アナウン サー・館恭子さん(人文日 3)が「アウンサー」た

## 「在学生との懇談会」が50回目

卒業生が現役学生に社会体験などをアドバイスする有 信会の「在学生との懇談会」が五月九日、福岡市中央区 の福岡国際ホールで開かれた。半世紀前の昭和三十八年 から続いている恒例の催しは今年で五十回目。先輩OB の卓話などもあり、学生たちが聞き入った。

今回も母校から衛藤学 長、各副学長、学部長、学 術文化部会や体育部会の各 部長、監督、さらに各サー クルの学生など約三百人を 招待。有信会からは各界で 活躍している招待者を含め て百十人が出席。例年とほ ぼ同じ参加者数だった。



川邊氏の 卓話要旨

学生時代は登山部に所属 して山登り一辺倒だった。 卒業してからは自動車会社 に勤めたが、三十六歳の時 にたこ焼きを始めた。すで に結婚して子ども三人い たものの、裸一貫が好き。 堂々とたこ焼きする者はい なかった。だが、組織化、



女生徒が混じった教室の授業

## 福大大濠高に 初めて女生徒 校長も相良氏に交代

男子高として知られてき た福岡大附属大濠高(福岡 市中央区)が今春から男女 共学校になった。四月九日 に行われた入学式では新入 生六百十八人のうち百七十 人が初めての女生徒。中高一 貫の大濠中学校は一足早く 昨春から共学化している。

同校は昭和二十三年の中 学校創立以来の男子校で、 これまでの卒業生数は約 四万人。共学化したことで 今春の高校志願者数は前年 度比で二五%増になった。

なお、同校では四月一日、 家宇治輝太郎校長が退任、 新しく相良浩文校長に写真 Ⅱが就任 した。相 良校長は 大濠高を 昭和四十五年卒、國學院大 大学院修士課程修了、県 立朝羽高教諭を経て昭和 五十三年から大濠高教諭。 筑紫野市在住、六一歳。



相良校長は 大濠高を 昭和四十五年卒、國學院大 大学院修士課程修了、県 立朝羽高教諭を経て昭和 五十三年から大濠高教諭。

## 先輩の卓話にも聞き入る

川畑理事長が「卒業生と 学生の交流の場として開催 している。先輩たちに遠慮 なく話しかけて下さい」と 懇談は十二テーブルに分

なかつた。だが、組織化、 ち「ばなし」と題したト ークショーを行った。 司会を塩田唯さん(法日 22)が務め、館さんから話 を引き出した。絵本の読み 語りボランティア活動や、 出産と子育てを体験した働 く女性の心構えなどが語ら れた。

懇親会では、就職が決まっ て今春から有信会会員にな る新卒予定の十人が壇上で 自己紹介。アトラクション として応援指導部リーダー 部門「KAITS」の華や かな演技も披露された。

熱心に先輩の話に耳を傾ける学生たち



# 卒業式



晴れ着など華やかさいっぱいの卒業式会場

第二記念会堂に入った卒業生たちは大半が晴れ着やかま、スーツ姿。式典では、衛藤学長から各学部総代十一人に学位記が授与された。また、在学中にクラブ活動などで活躍した三人に学長賞が贈られた。

学長式辞では、アメリカのジョン・F・ケネディが大統領就任式で演説したときの言葉を引用して「自身自身で知と心を磨いて、道を切り拓いていってもらいたい」と、饒(はなむけ)の言葉を贈った。



卒業証書の授与

学校法人の鎌田迪真理事長は「逆境作人、いかなる困難にも決して諦めない強い精神力を」とあいさつ。有信会の川畑理事長も祝辞を述べた。卒業生総代の片山祐希さん(医学部)が答辞で、自分の選んだ道を精進していくことを誓った。

式後、会場前ではクラブ活動の後輩たちによる恒例の卒業生胴上げがあちこちで繰り広げられた。

## 川畑理事長の祝辞

「卒業おめでとうございませう。福岡大学の同窓会、有信会」は学部ごとの同窓会、会も同じ。卒業生同士が支

え合い、ネットワークを築いて社会に貢献していくことが望まれています。有信会は会員の皆さんと母校を繋ぐ架け橋の役割を担っています。母校をバックアップし、その絆を深めて、ともに発展したいと願っています。

## リサイクルマーケット

### 卒業生から新入生へ 不要の日用品を無償譲渡

卒業生が巣立ちを機に不要になった日用品を新入生に無償譲渡する福岡リサイクルマーケットが四月一日から三日間、大学近くの愛好会館で開かれた。テレビ、洗濯機、冷蔵庫などの電化製品からベッド、ソファ、机、食器、自転車など

ど、さまざまな提供品約千八百点が並び、初日は約五百四十人、三日間で計八百五十人の新入生に手渡された。同マーケットは在学生らの新入生歓迎オリエンテーション実行委員会などに地元福岡市城南区のさわやか会が協力。今年で十八回目という。二十一台あった洗濯機、二十二台の冷蔵庫などがアツという間になくなった。また、大学と地域が一体になって、ゴミの分別クイズやリサイクル説明会なども開催された。



リサイクルマーケットで日用品を選ぶ新入生

# OG 計23万4401人に

母校のキャンパスでは今年の春も、学生たちの巣立ちと出会いのドラマが展開された。卒業式は三月十九日に行われ、学部四千三百六十六人、大学院二百四十六人に学位記が授与された。母校を卒業したOB・OGは合計二十三万四千四百一人になった。入学式は四月一日にあり、学部四千五百十六人、大学院二百六十九人の計四千七百八十五人が有信並木をくぐった。

# 入学式



入学式を終えて「有信並木」をくぐる新入生たち

式典序曲の演奏が始まった入学式は、会場二階のスタンドも付き添いの家族で超満員。衛藤学長の式辞に続いて鎌田理事長があいさつ。「皆さんは今日から福大生。自身の時間をどう使うかが大切です。創造力、想像力が求められる。国家社会の期待に応えて欲しい」と語った。

壇上の大学役員が紹介され、在学生代表歓迎の辞。このあと、新入生を代表してスポーツ科学部の田代雄大さん(福大大濠高出身)



入学式に見入る招待の卒業生たち

が入学の辞を述べた。恒例の卒業生招待、今年は昭和四十四年卒が対象だった。三十七人が申し込み、スタンドで静かに式を見守ったあと、懇親会も開かれた。

## 衛藤学長の式辞

大学生活のスタートに当たって心がける点を五つ述べます。①強い意志、志を持つこと。自分づくりの道

と。教養知、専門知、経験知を学ぶことは知性、感性、人間性を磨くことになる③勉学が核(中心)であること。苦しみながら努力を。勉学には我慢、抑制、集中、エネルギーが必要④時間を大切にすること。規律正しく、目的意識を持って過ごすことが大切⑤出会いを大切にすること。友情、絆は何物にも代え難い生涯の宝物。それを大事に、人生に活かしてもらいたい。



# る 母 校 が 誇 り



**中央図書館**

中央図書館玄関前でテープカットする川畑有信会長、衛藤学長、鎌田学校法人理事長、松則図書館長、仲村父母後援会長

中央図書館と2号館(通称・商学部棟)―最先端の技術を取り入れた建物には、全国の大学でも珍しい施設の数々がある。卒業生にとっても誇りの新館2棟をカメラで訪問した。―中央図書館の自慢はまず一階ラウンジ。文化の薫りが溢れている。二、三、四階に分かれる閲覧室は合わせて二千席。当面百四十余万冊が運び込まれた書庫はコンピュータで自動制御され、約三分間から五分間で希望の書籍を取り出す。視聴覚障害者のための読書支援室、屋上の草花園もユニークだ。2号館の目玉は双方向対話型のレスポンス・アナライザー。学生の出席管理やアンケート集計が容易だ。壁面緑化に使われているポットは計千二百二十七個。一個にカズラ三十二株ずつが植え込まれている。

## 新館2棟

## カメラで訪問



## 有信会から絵画を贈る

中央図書館の竣工に伴い有信会はお祝いの絵画を三月二十一日に母校に寄贈した。作品は中村琢二画伯(1897〜1988)の油彩「西伊豆の漁村」(50号。藍色の柔らかな闇にだんだんと朝の光が広がっていく美しさは、遠い先祖の遺伝子に届くような作品と評されている。母校本館会議室で行われた贈呈式には母校から衛藤学長や各副学長ら、有信会からも川畑理事長や大神事務局長らが出席。作品の前で川畑理事長から衛藤学長に目録が手渡された。作品は同図書館一階ラウンジに飾っている。寄贈は先の理事会で決定していた。画伯は父親が当時の宗像郡宮田村出身。だから、県立東筑中に入学、修猷館に転校して卒業。福岡とはゆかりが深い。



**2号館**

外壁の壁面緑化でツルを伸ばし始めたカズラ



2号館で行われた「商学部棟竣工記念の集い」であいさつする学校法人の鎌田理事長(壇上)

学生証などのICカードと連携してアンケートも取れる双方向対話型教育支援システムの受講生用端末



福岡商科大同窓会(商大会)が寄贈した記念の壁時計

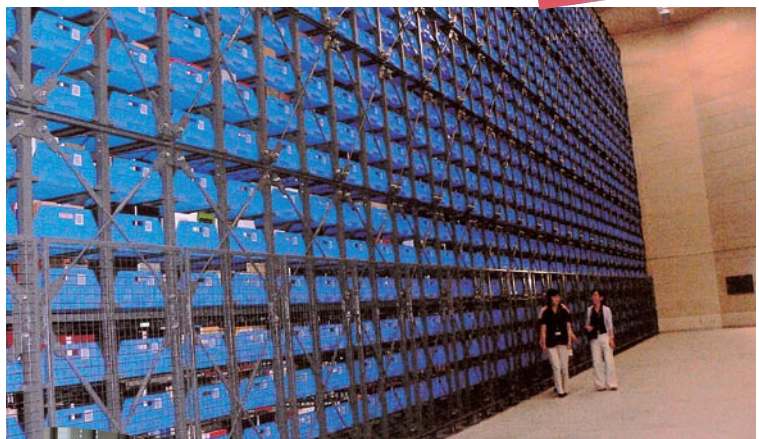


竣工記念の集いで館内を回る見学者



# 最先端を走

◀「返却・貸し出し」の受付窓口は2階



◀コンピュータで制御される地下の自動書庫コンテナは現在3万4千個。最大4万3千個まで増やせる



◀携帯電話や飲み物がOKのリフレッシュコーナー



◀閲覧席は2階、4階に計約2千席



利用者がカード一枚で操作できる自動貸出機

本学創立七十五周年記念事業の中核として建設中であつた新中央図書館が遂に完成し、七月二日グランドオープンしました。この新中央図書館は、日本を代表する企業たる日建設計と大林組のコンビによって設計・施工された自信作で、「日本の三指に入る大学図書館」との高い評価を既に各方面よりいただいております。規模や機能、設備ほか、正に日本を代表する大学図書館の完成を誇りに思うと共に、有信会をはじめ関係各位に対し、衷心より感謝の



— 図書館長 則松 彰文

## 中央図書館の活用を

意を表したいと存じます。さて、新築なつた福岡大学中央図書館のコンセプトは、知の集積場所と総合的文化発信、これら二点です。大学図書館は他の公共図書館とは異なり、教員と学生

の研究と教育を全面的にバックアップするという第一義的意義を有します。また、後世に継承すべき知的財産や文化財・学術資料を積極的に収集し保存すると

いう社会的責務をも担っています。ここで新図書館には、貴重書コレクションのための特別仕様書庫を設置し、墨の和書・漢籍に対応する書架とインクの洋書に対応する新図書館は大量の蔵書はもちろん、絵画やオブジェなどの文化的作品を展示するなどの機能で、今以上に文化発信の機能を充実させていきます。福岡大学図書館の更なる充実をどうぞご期待下さい。



和書6千冊、洋書4千冊を厳重管理する貴重書庫



支部総会の開催記録(24年3月-6月)

支部名	開催日	参加者	本部出席者
田川支部	3/10	110	川畑理事長
JAくるめ支部	3/15	17	-
JA鹿牟田支部	3/17	10	-
山鹿支部	4/21	21	佐藤副理事長
大牟田支部	5/8	53	同
大屋支部	5/12	80	川畑理事長
大屋支部	5/12	65	植村理事
大屋支部	5/18	182	川畑理事長他
大屋支部	5/19	36	篠原理事
大屋支部	5/24	28	植村理事
大屋支部	6/2	44	佐藤副理事長
大屋支部	6/2	82	川畑理事長
大屋支部	6/8	75	同
大屋支部	6/8	80	佐藤副理事長
大屋支部	6/8	76	井口名管理局長
大屋支部	6/8	32	小島理事
大屋支部	6/9	52	大島理事
大屋支部	6/10	30	正岡理事
大屋支部	6/17	60	川畑理事

飯塚支部



現役が祝舞を披露

第七十一回目を迎えた飯塚支部の総会は二月十七日、飯塚市のがみプレジデントホテルで開かれた。大学から小野寺一浩学生部長、有信会から川畑理事長、近隣支部の役員などの来賓と会員を合わせて八十八人が出席。議案は原案どおり承認され、現役学生(商三年生)が槍を使った祝舞を披露。懇親会では中華料理と地酒を堪能。女性三人の打楽器演奏も人気だった。

浮羽支部

武下氏が新支部長  
三年間にわたって活動を



武下氏が新支部長  
三年間にわたって活動を

天野理事、近隣の久留米、大牟田、小郡三井各支部長ら来賓六人と会員二十六人が参加。武下誠一郎氏(経38)を新支部長とする役員改選案を承認した。懇親会

中止していた浮羽支部の第十六回総会は二月十七日、うきは市の総合会館・アルカスで行われた。有信会から

田川支部

では、昨春の県議選で初当選した中村誠治氏(法53)が紹介された。

新支部長は道氏に  
田川支部の第三十九回総会は三月十日、田川市のザ・ブリテッシュヒルズに来賓や会員計百十人が参加して開催された。このうち来賓は母校から今泉副学長、有信会から川畑理事長、周辺支部の役員など二十六人。



役員改選では永年務めた野村支部長が退任、道廣幸氏(法47)と交代した。懇親会では会員の田中秀美さん(経58)主宰のフラメンコ舞踏が披露され、抽選会で賑わった。

長崎市役所支部



新支部長に山川氏  
長崎市役所支部の総会は退職者の送別会を兼ねて二月十七日、長崎市のガーデンテラス長崎で開かれた。現在会員は現職六十九人とOB二十四人の計九十三人。このうち三十一人が参

奈良支部

初参加者も交えて  
奈良支部は第二十三回総会を三月十七日、奈良市の奈良ロイヤルホテルで行つ



た。大阪支部の原支部長らを迎えて、十人が集まった。懇親会は初めて参加した二人の自己紹介など和やかに懇談した。

山鹿支部

記念誌発行も報告  
山鹿支部の第十一回総会

加、有信会から植村理事が出席した。議事では役員改選があり、中川支部長が定年退職することから新支部長に山川久人氏(経51)を選出した。退職者は四氏。他の主な新役員は次のとおり、敬称略。▽副支部長 坪井博(人文51)▽幹事長 三井敏弘(商57)▽監査 吉本泰三(工57)

福岡銀行支部

新入行員13人も  
福岡銀行支部の総会は新入行員の歓迎会も兼ねて六

四月二十一日、山鹿市の富士ホテルであった。有信会から佐藤副理事長が出席、会員も二十人が集まった。支部発足十周年の記念誌発行などが報告された。

糟屋支部

7町の分会が交流  
糟屋郡内の七町分会からなる糟屋支部の総会は五月十二日、福岡市博多区の八仙閣で行われた。母校から添田泰司薬学部長、有信会から植村理事、古賀支部幹事が出席。会員も六十二人が参加した。会則の一部改正を承認したあと懇親会があった。

おめでとう45回総会

すこいパンフ広告  
北九州支部が第四十五回総会を五月十八日に北九州小倉北区のホテルアルモニーサンクで開催した。来賓は衛藤学長、川畑有信会理事長、さらに近隣の宗像、田川、直鞍、飯塚、京

北九州支部  
会案内のパンフレットはB5版の四十頁だが、このうち三十頁は何と百十社を超す広告。役員

大牟田支部  
大牟田支部の総会は五月八日、大牟田市のオームタワーデンホテルに来賓、会員合わせて五十三人が参加して開かれた。有信会から

懇親会では全員が一分間ス

立ち、広告料百万円の目標も達成したという。総会では宮能攸治支部長のあいさつ。衛藤学長、川畑理事長が祝辞を述べた。懇親会では、ギター演奏、女声歌手の熱唱、ベリィダンスなどが次々に披露された。抽選会も人気を呼んだ。最後は来賓や支部役員が壇上に上がって、トライ三唱をした。





古賀支部

「秋入学も検討する」古賀支部の第十一回総会は五月十九日、古賀市の八仙閣古賀支店であった。大



長から「母校の秋入学も検討する」などの祝辞があった。

柳川支部

新支部長に石橋氏 柳川支部の第七回総会は



五月二十四日、柳川市の中華料理店北斗星で開いた。有信会から植村理事が出席、橋功臣氏(法42)を選んだ。主な役員は次のとおり。敬称略▽副支部長 末吉利海も二十七人が集まった。▽事務局長 大淵洋祐(工本部から57)



「同窓の絆大切に」五十年前の昭和三十七年に支部発足、同四十七年から総会開始という熊本支部の第四十回総会「卒業生の集い」が六月八日、熊本市の鶴屋百貨店ホールで開かれた。母校から就職・進路支援センターの立花時弘事を大切にしよう」と訴えた。

支部50年 総会40回

熊本支部

務部長、有信会から佐藤副理事長ら、尾曲人吉球磨支部長が来賓出席。会員も七十六人が参加した。内藤支部長はあいさつで「支部発足から半世紀。同窓の絆を大切にしよう」と訴えた。大賑わいだった。

宗像支部

来賓とも82人出席 第三十一回の宗像支部総会は六月二日、宗像市の国民宿舎ひびきで開催された。大学から則松彰文図書館長、有信会から川畑理事長、各近隣支部の役員ら来賓二十一人を含めて八十二



人が出席、天野支部長があいさつした。懇親会では魚料理と地酒で旧交を深め、初参加者の紹介やミニコンサートもあった。

山口支部

石川選手に募金！ 山口支部の総会も六月二日、山口市の湯田温泉ホテル松政であった。母校から武居一正国際センター長、有信会から佐藤副理事長が出席。会員合わせて四十二人が集まった。卓球でロンドン五輪に出場する石川佳純選手の父親・公久氏(体61)が初参加していたこともあり、その場で応援募金を募り、活躍を祈った。

周南支部

歌・踊り・語らい 「歌って踊って語らいの



人が見事なバチさばきを見せた。続いて来賓が次々にあいさつ。川畑理事長も、栄光の魂を今後も受け継いで欲しい」と祝辞を贈った。同OB会は六十周年記念誌「拳友」を発行、参加者に配った。A4版、九十四頁。関係者あいさつに続いて、OBたちが綴ったさまざまな思い出、さらに記録に残る写真などを収録している。

東京支部

激辛方針に転換へ 多彩な活動で知られる東京支部の二十四年度総会は六月八日、都内のアルカディア市ヶ谷で開催された。母校から馬本副学長ら、有信会から川畑理事長の来賓五人を含む七十五人が参加した。活動報告などのあと役員改選。芦川支部長が再選され、運営方針を発表した。これまでは「明るく、仲良く・元氣良く」の融和路線だったが、今後は「戦う・燃える・ファイト一発」の激辛方針に転換することが発表された。懇親会は和気あいあい。



夕べ」と銘打った周南支部の第三十九回総会は六月八日、周南市

栄光の歴史かみしめ

空手道部が60周年式典

世界選手権やアジア選手権を制覇したこともある母校空手道部が創部六十周年を迎えた。同部OB会(徳永琢司会長)は記念式典を四月二十一日、福岡市博多区のグラウンド・ハイアット・福岡で開催、栄光の歴史をかみしめた。

同部は昭和二十八年にス タート。これまでのOB数は三百人を超す。その間、鍋城さんは同十年の世界大会で当時一年生だった鍋城(無差別級)でも優勝。九原副学長や小野寺学生部

長、さらに全九州や福岡県の大、福岡教育大、九州産業大からの各OB会役員などが出席。有信会からも川畑理事長らが駆け付けた。OB会員や学生も含めて約百三十人が参加した。

式典を前に会場ではまず福岡大附属若葉高校の津軽三味線部がアトラクション演奏。顧問の岩田英世教諭と赤い法被姿の女子部員八

が、さらに全九州や福岡県の大、福岡教育大、九州産業大からの各OB会役員などが出席。有信会からも川畑理事長らが駆け付けた。OB会員や学生も含めて約百三十人が参加した。

式典を前に会場ではまず福岡大附属若葉高校の津軽三味線部がアトラクション演奏。顧問の岩田英世教諭と赤い法被姿の女子部員八



アトラクションで披露される若葉高の津軽三味線



### 平成23年度 事業報告書

平成23年度は、福岡大学卒業生の同窓会として会員相互の情報交換、親睦、異業種交流会等の活性化を図ると共に、母校の発展充実のため大学当局との協議、連携の場をもち卒業生と母校の絆をより強固なものにするよう努力してきた。また、同窓会費徴収方法が大学当局のご理解により改善された。

本会は、一般社団法人への移行認可申請への進捗状況を代議員総会で逐次報告、承認を得ながら準備を進めた。平成23年度決算書審議・承認後に行政庁へ申請することになる。

#### 1 公益活動の推進

- ・ 母校に対する支援として、創立75周年記念事業の一つである中央図書館竣工記念に絵画1点を寄贈した。同窓会員の人材活用による在学生の就職進路支援ガイダンスや、地域社会との連携、社会福祉を含めた公益活動を実施した。学友会の対外試合の応援協力を呼びかけ多数の同窓会会員が協力した。
- ・ 会員以外の一般市民も参加できる公開講演会を会員大会当日実施した。講師は浜矩子氏(同志社大学大学院教授)であった。
- ・ 社会福祉活動として、有信チャリティゴルフ大会の募金250,000円を「やすらぎ荘」へ寄付した。

#### 2 事業活動の充実と会員相互の親睦強化

- ・ 5月の在学生との懇談会には在学生や有信会会員、大学役職者、クラブ部長や監督ら約450名の参加があり、講師に河邊哲司氏(商学部昭53年卒)を迎え、「志あれば道ありき」というテーマで家業成長・発展を語ってもらった。
- ・ 平成23年6月第1回代議員総会で前年度事業と決算の報告、平成24年3月第2回代議員総会で次年度事業計画と予算書の審議承認が行われた。
- ・ 有信八日会は年9回開催、延総数939名であった。チャリティゴルフ大会には240名の参加者があった。またホームカミングデーを11月5日七隈祭でにぎわうキャンパスで、大学と共催で行った。
- ・ 4月の母校入学式には昭和43年卒業生が招待を受けた。

#### 3 広報活動の充実

有信会の運営や公益活動また全国各支部会員の活動状況等を伝えるため、広報紙「有信」とホームページのそれぞれの機能を充実させた。「有信」では親しみやすく分かりやすく、そしてホームページでは最新の情報をタイムリーに掲載できるよう鋭意努力している。

#### 4 組織の活性化

全学部等同窓会が揃い、地域・職域支部もそれぞれ総会を開催し絆を深めている。各会合への若年層や女性会員の参加が伸び悩んでいるため、参加する意欲を高める必要がある。

#### 5 会員データベースの充実と情報の管理体制の徹底

会員情報の更新のため、地道な調査を行っているが、個人情報保護法の施行により調査に支障をきたすケースが多くなってきた。追跡調査による判明率は低下しているが、データの収集・変更・管理・保全等は法令遵守に努めている。

#### 6 財政基盤の強化

財政基盤強化のため、終身会費徴収を徹底し、郵送費軽減などを中心とした経費節減への取組みに引き続き努力した。一般社団法人移行に伴う財産運用となり、見直しの為運用利息の減収となった。

#### 7 各種会議・会合の有効な運営

有信会活動を有効に進展させるため、各種会議が緊密に連携した運営に努めた。また議事内容も精査し、密度の高い充実した内容になるよう努めた。

#### 8 公益法人制度改革に伴う準備

社団法人有信会は現在特例民法法人であるが、一般社団法人への移行認可申請は、23年度事業報告書及び決算書の審議・承認後、所定の申請書を作成し行政庁(内閣府)へ行う。

福岡大の前身・福岡商科大や短大の卒業生たちが集う商大会(原田孝会長)の総会が今年も五月十二日、福岡市中央区の福新楼で開かれた。母校から石上悦朗商学部長、有信会からも川畑理事長らが出席。平均年齢八十歳という会員たち約八十人が参加。総会、講演会、懇親会を楽しんだ。

会員は昭和二十八年(三十一年)の商学部卒と二十七年(三十二年)の短大卒。この日は宮崎など遠方からの参加者や奥さん連れなどもいた。総会では、原田会長のあいさつに続いて、川畑理事長が有信会の一般社団法人への移行を紹介した。事業報告や決算報告のあと役員改選。現役員

### 食生活の講演聞く

平均80歳の80人が参加

商大会同窓会総会、丸写真は秀平さん



に入つて、石上商学部長が祝辞。会員の祝舞などが披露された。最後には全員が力いっぱい声を張り上げて校歌を斉唱した。

### 商大会

## 学部同窓会総会

### 法学部

卒業生数が四万人を超えた法学部の同窓会(三ッ角直正会長)は二十四年度総会を六月十七日、母校の文系センター十五階で開いた。

### ジョン万次郎を語る 玄孫の名誉教授が講演

加者増などを協議するため幹事会を開催する。六月から二年間の幹事二十六人と監査二人が決まった。講演会は母校医学部の今

とあいさつ。来賓出席した母校の浅野直人教授、有信会の川畑理事長らがお祝いの言葉を述べた。参加会員のスピーチなどもあった。



法学部同窓会総会、丸写真は今永名誉教授

た。総会に続いて講演会、さらに十六階スカイラウンジで懇親会。有信会会員大会の翌日ということもあって約六十人が参加した。総会では事業報告や収支決算報告、さらに事業計画や予算などを承認した。また、会員の拡大や総会の参

永一成名誉教授が行った。演題は「明治維新に尽力した中濱(ジョン)万次郎」。同名誉教授は万次郎の玄孫に当たる。それだけに万次郎には詳しく、生い立ちから漂流、アメリカへ行ったいきさつ、帰国後の活躍ぶりなどが詳細に語られた。懇親会では、三ッ角会長が「本日は東京など遠方の会員も出席。活発な交流を」とあいさつ。来賓出席した



## 平成23年度 貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

単位：千円

科 目	当年度(A)	前年度(B)	増減(A)-(B)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	66,722	52,173	14,549
預り金預金	609	482	127
流動資産合計	67,331	52,655	14,676
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本金資産	300	300	0
有信振興基金資産	200,000	200,000	0
基本財産合計	200,300	200,300	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	2,857	4,938	△ 2,081
特定資産合計	2,857	4,938	△ 2,081
(3) その他固定資産			
事業積立金Ⅰ	150,000	150,000	0
事業積立金Ⅱ	40,000	40,000	0
什器備品	937	1,105	△ 168
その他固定資産合計	190,937	191,105	△ 168
固定資産合計	394,094	396,343	△ 2,249
資産合計	461,425	448,998	12,427
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受入会金・会費	67,705	73,920	△ 6,215
預り金	609	481	128
流動負債合計	68,314	74,401	△ 6,087
2. 固定負債			
前受入会金・会費	69,910	68,040	1,870
退職給付引当金	2,857	4,938	△ 2,081
固定負債合計	72,767	72,978	△ 211
負債合計	141,081	147,379	△ 6,298
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	300	300	0
(うち基本財産への充当額)	( 300)	( 300)	( 0)
2. 一般正味財産	320,044	301,319	18,725
(うち基本財産への充当額)	( 200,000)	( 200,000)	( 0)
(うち特定資産への充当額)	( 2,857)	( 4,938)	(△ 2,081)
正味財産合計	320,344	301,619	18,725
負債及び正味財産合計	461,425	448,998	12,427

## 平成23年度 正味財産増減計算書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

単位：千円

科 目	当年度(A)	前年度(B)	増減(A)-(B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	118,854	124,405	△ 5,551
(2) 経常費用	100,129	102,110	△ 1,981
当期経常増減額	18,725	22,295	△ 3,570
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	18,725	22,295	△ 3,570
一般正味財産期首残高	301,319	279,024	22,295
一般正味財産期末残高	320,044	301,319	18,725
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	300	300	0
指定正味財産期末残高	300	300	0
III 正味財産期末残高	320,344	301,619	18,725

## 平成23年度 収支計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

単位：千円

科 目	予算額	決算額
I 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
①財産運用収入	1,137	1,167
②入会金・会費収入	108,210	108,245
④負担金他収入	3,995	3,607
⑤有信共益事業収入	5,420	5,765
⑥雑収入	50	70
事業活動収入計	118,812	118,854
2. 事業活動支出		
①事業費支出		
母校援助費支出	18,291	17,766
広報紙費関連支出	28,876	27,937
会員大会等支出	10,103	9,021
支部援助費支出	12,200	7,009
有信共益事業支出	5,420	5,675
事業費支出計	74,890	67,408
②管理費支出		
給料手当等支出	21,429	19,743
会議費等支出	15,330	11,932
賃借料等支出	3,475	2,839
管理費支出計	40,234	34,514
事業活動支出計	115,124	101,922
事業活動収支差額	3,688	16,932
II 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
①特定資産引当資産収入	4,528	2,900
投資活動収入計	4,528	2,900
2. 投資活動支出		
退職給付引当預金支出	780	819
什器備品取得支出	500	120
投資活動支出計	1,280	939
投資活動収支差額	3,248	1,961
III 財務活動収支の部		
1. その他の収入		
①前受入会金・会費収入	68,630	69,575
その他の収入計	68,630	69,575
2. 収入調整勘定支出		
①前受入会金等調整支出	73,920	73,920
収入調整勘定支出計	73,920	73,920
財務活動収支差額	△ 5,290	△ 4,345
IV 予備費支出	2,000	0
当期収支差額	1,089	14,548
前期繰越収支差額	50,719	52,174
次期繰越収支差額	51,808	66,722



母校工学部が昭和三十七年に設立されて半世紀を迎えた。これを祝って「五十周年記念祝賀会」をホームカミングデーが行われる十一月三日(土)午後四時から母校の新しい中央図書館一階食堂で開催する。

## 工学部が50周年祝賀会

同学部は現在、機械工学、高い専門技術者を養成して科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学

## ホームカミング 11/3 講演会も

参加希望者は申込みを

科、社会デザイン工学科、建築学科の六学科を持つ。先端的な研究開発から身の回りの基盤技術まで、質の

祝賀会は実行委員会(委員長 荒牧重登工学部長)を中心に準備している。当日はまず荒牧学部長あいさつに続いて、衛藤学長と川畑有信会理事長が祝辞を述べる予定。同学部機械工学科の山口住夫教授が「工学部五十年の歩み」と題し、写真などを使って分かりやすく講演する。

このあとパーティー。会費は五千円だが、事前申し込みが必要。連絡先は shuku@fukuoka-u.ac.jp。

作兵衛さんの記念画集を手にする井上さん



## オール福大写真展 50回に

## 秘蔵の炭坑画展示

### 作兵衛さんの孫が部OB

12/13~18



永井選手

## 永井選手が五輪出場

—サッカー男子

日本サッカー協会はロンドン五輪に挑む男子の日本代表選手十八人を七月二日に発表、母校出身のFW永

井謙佑選手(スポ科H23) 名古屋GIIが見事に代表入りを果たした。五輪では1次リーグD組で二十六日

から試合が始まる。なお、母校出身で出場が期待されていた他の有力選手たちは惜しくも涙をのんだ。

## 母校出身の柔道 七戸選手初優勝

柔道の全日本選抜体重別選手権最終日は五月十三日福岡市の福岡国際センターで行われ、男子100超級で母校出身の七戸龍選手(スポ科H23)九州電力

炭坑画約十点も特別展示されることになり、内外から注目されそう。

作兵衛さんの記憶遺産は炭坑画をはじめ日記やノートなども含めて六百九十七

点が低くロンドン五輪には出場できない。四年後のリオ五輪が楽しみ。

## お悔やみ申し上げます

菊池 昌弘氏(きくちまさひろ) 福岡大学名誉教授、元同大副学長、元有信会相談役)四月二十八日に死去。七十八歳。自宅は非公表。

母校写真部が今年も「オール福岡大学写真展」を十二月十三日(木)~十八日(火)の六日間、福岡市博多区のアジア美術館で開催する。第五十回目の記念展で、約二百点を超える作品が展示される見込み。今回はユネスコの世界記憶遺産に登録された筑豊の炭鉱記録画家・山本作兵衛さん(1892~1984)の

題した特別コーナーを併設。地元の人々が保存している炭鉱最盛期の写真に交えて、新規に撮影した写真数十点も出品する予定。写真部の現役学生、OBやOGなどの一般写真も並ぶ。

## レディースクラブのつどい 10/27

### 薬学部長の講演も

有信会の女性会員たちが参加する「レディースクラブのつどい」が今年も十月二十七日(土)午後零時半から福岡市中央区の福岡国

際ホールで開催される。当日は母校の添田泰司薬学部長を招いての講演がある。また、懇親会では、琉球舞踊の木村清美さん(体H1)のアトラクションも予定されている。卒業生の積極参加を呼びかけている。会費三千円。問い合わせは有信会事務局。

務める「作兵衛事務所」は記念画集をこのほど自費出版した。問い合わせは同事務所 0947・42・6156

終身会費納入のお願 有信会は終身会費により運営されています。会費未納の方は、出費多端の折恐縮ですが、納入下さいますようお願い申し上げます。

発行所 福岡市城南区七隈 8-19-1 福岡大学内 社団法人 有 信 会 郵便番号 814-0180 電話 (092) 871-6631 FAX (092) 863-3668 印刷所 福岡市西区周船寺 3-28-1 正光印刷(株)